

タネツケバナ (種浸け花)

名前の意味：イネのモミを水に浸けて芽を出させる頃に咲く花の意味。

分類：双子葉類、アブラナ科、タネツケバナ属

(アブラナ科の栽培植物：アブラナ、ダイコン、ワサビ、カブ)

好きな場所：日当たりのよい溝、田んぼ

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた (自生)

特徴：細かく分かれた複葉、白い小さな花、棒のような形をした実

種子の運ばれかた：そのまま地面に落ちる

花弁の数：離弁、4枚

花の時期：3—5月

食べ方：茹でておひたしにする

見分け方：ナズナとは、果実の形が棒のようであり、湿った所に生えることで区別できる。ナズナの果実はハート形。

見つけやすさ ★★

見分けやすさ ★★

総合難易度 ★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)